



通いの場を利用する高齢者におけるInformation and
Communication Technology
活用の多面的な影響の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中原, 啓太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002002949

称号及び氏名 博士（保健学） 中原 啓太

学位授与の日付 令和7年3月31日

論文名 通いの場を利用する高齢者における Information and
Communication Technology 活用の多面的な影響の検討

論文審査委員 主査 横井 賀津志

副査 内藤 泰男

副査 竹林 崇

学位論文の要旨

高齢者にとって社会参加は、健康寿命の延伸、認知機能の維持、孤独感の軽減に寄与するため、介護予防の観点からも重要である。そのため、高齢社会の日本では、高齢者が主体的に運営する通いの場を通して、高齢者の社会参加を促す政策を進めている。加えて、この政策では、通いの場の質を高めるためにリハビリテーション職(リハ職)の介入も促している。しかし、課題としては、多くの高齢者が身体および社会的制約により、積極的な社会参加が制約されることや、リハ職の人的不足などの影響で関わりが不足している。これに対し、情報通信技術 (ICT) の活用が有効な手段となり得る。ICT の活用は、これらの制約を乗り越え、介護予防にも寄与する可能性がある。そこで、研究1は仮説生成、研究2は仮説検証を統計的に実施した。

研究1：ICT を活用した高齢者の社会参加に関するスコーピングレビューでは、既存研究574編を精査し、18編を分析対象とした。その結果、ICTの活用は、ソーシャルネットワークの拡大、認知機能低下の予防、孤独感の軽減に寄与することが明らかになった。また、社会参加の測定は、客観的要素だけであり、主観的な指標を用いた分析は見当たらなかった。

研究2：大阪府内の通いの場を利用する高齢者113名を対象に、ICT利用が社会参加や認知機能、孤独感に及ぼす影響を検討した。その結果、ICT利用がソーシャルネットワークの拡大に寄与し($\beta=0.488$)、その拡大が社会参加の頻度($\beta=0.297$)および充実($\beta=0.345$)を向上させることが明らかになった。そして、充実した社会参加のみが認知機能の向上($\beta=0.221$)および孤独感の軽減($\beta=-0.206$)に寄与することが示された。

今後は、地域の通いの場や集会所において介入プログラムを構築し、その効果を検証することで、高齢者の生活の質向上や健康寿命の延伸に寄与することが期待される。

論文審査結果の要旨

高齢者にとって社会参加は、健康寿命の延伸、認知機能の維持、孤独感の軽減に寄与するため、介護予防の観点からも重要である。日本では、高齢者が主体的に運営する通いの場を通じて社会参加を促進する政策が進められており、さらにリハビリテーション専門職（以下、リハ職）の介入も推奨されている。しかし、高齢者が身体的および社会的制約によって積極的な社会参加が困難になることや、リハ職の人材不足が課題となっている。これに対し、情報通信技術（ICT）の活用が有効な手段となり得る。ICTの活用は、これらの制約を克服し、介護予防にも寄与する可能性がある。

本研究では、高齢者のICT利用による社会参加への影響を検討するため、仮説を生成する研究（研究①）と、それを統計的に検証する研究（研究②）を実施した。

研究①では、ICTを活用した高齢者の社会参加に関するスコーピングレビューを実施し、既存研究574編を精査した結果、18編を分析対象とした。その結果、ICTの活用がソーシャルネットワークの拡大、認知機能低下の予防、孤独感の軽減に寄与することが明らかになった。しかし、社会参加の測定には客観的要素のみが用いられており、主観的指標を用いた分析は見当たらなかった。これらの結果を基に仮説モデルを作成した。

研究②では、通いの場を利用する高齢者113名を対象に、ICT利用が社会参加、認知機能、孤独感に及ぼす影響を検討した。その結果、ICT利用がソーシャルネットワークの拡大に寄与し、その拡大が社会参加の頻度および充実度を向上させることが明らかになった。また、充実した社会参加のみが認知機能の向上および孤独感の軽減に寄与することが示された。

本研究の成果は、地域の通いの場や集会所における介入プログラムの構築に貢献するものである。

本研究における個別審査および最終審査会でのプレゼンテーションや質疑応答は適切に行われた。また、個別審査での指摘に対しては、本論文を修正し、適切に対応している。本研究は、リハビリテーション（保健学）分野において、すでに社会参加している高齢者がICTを利用することで、さらなる生活の質向上や健康寿命の延伸に寄与することが期待され、社会的意義が高い。

以上のことから、本論文はリハビリテーション学研究に大きく貢献するものであり、審査委員は全会一致で博士（保健学）の学位に値すると判断した。